



第28回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイメージーションを感じていただくことを目的としています。

このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2021年**6月9日**（水）**14:00～16:00**

場所：WEB開催（zoomを使用します）

申込者には当日のアクセス方法を別途メールでご連絡いたします。

zoomが使用できない場合はご参加いただけませんのでご了承ください。

参加費：無料

主催：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

共催：NPO法人バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会

講演 I 14:00-15:00

「ゼブラフィッシュを用いた循環臓器発生学研究」

国立循環器病研究センター 理事 研究所長 望月 直樹

個体発生の際の諸臓器形成には、酸素化が老廃物のクリアランスが不可欠となるために循環臓器（心臓・脈管系）の発生が先行する。心臓・脈管形成時には頭尾軸、背腹軸、左右軸に従った臓器組織の前駆細胞の配置と同細胞の増殖・分化・遊走による臓器形成が必要である。これらの過程を調節する情報伝達の経時的な変化による繊細な制御により臓器形成が完了する。

本講演では、ゼブラフィッシュをモデルとして、いかに循環臓器が形成されるかを形態イメージングと情報伝達（転写制御）を同時に可視化することで検討してきた結果を紹介する。

講演Ⅱ 15:00-16:00

「ポストコロナ時代における多剤耐性菌感染症克服に関する研究」

大阪大学産業科学研究所 教授 西野 邦彦

前世紀半ばにペニシリンが発見されたのを皮切りに数々の抗菌薬が開発され、人類を脅かした細菌感染症は克服されたかに見えた。しかし、現在では、複数の抗菌薬が効かない多剤耐性菌による感染症例が増加し、世界的に大きな問題となっている。本講演では、細菌の多剤耐性化の原因となる薬剤排出ポンプの機能や制御機構について紹介するとともに、多剤耐性化軽減を目的とした創薬研究の取り組みについて説明する。

申込先：参加希望者は2021年6月8日（火）までに、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議のホームページからお申込みください。

URL：<https://kinkibio.com/>

問合先：

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（国松、大嶋）

公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村）